

## 4. 肺結核について

### 1. 原因及び感染経路

結核は、結核菌によって感染します。結核菌を持っている人の咳やくしゃみによって、空気中に飛び散ります（飛沫）。このしぶきの中の結核菌や、空中を浮遊する結核菌を吸い込む事により感染します（空気感染）。

結核菌は抵抗力が強いので一度治っても再発する恐れがあります。

### 2. ケアの具体的方法と注意

すべての結核患者が感染源になるわけではありませんし、すぐに感染するものでもありません。医師による正しい診断と結果がでるまで、冷静に行動し、医師に確認しましょう。

- 1) 結核の疑いがあり、前記の検査の結果、あきらかな肺結核で、他へ感染する危険があると判断された場合は入院をして治療を受けます。

強く結核が疑われる場合や結核と診断され、マスクを着用する必要がある場合は、結核マスク（N95）を着用します（なければサージカルマスク）。布製の一般用は、菌が織り目を通過し効果がありません。

結核と診断された場合、医師が管轄の保健所に発生届を提出され、特に感染性の場合には、保健所から感染者に関した家族、介護サービス提供者にその後の対応や検診の必要性などについての指示がされるので、それに従います。その場合、自分の上司に必ず報告をして下さい。

- 2) 結核の疑いがあるが他への感染の危険性はないと判断された肺結核の利用者に対して

- ①咳やくしゃみが多い時は本人と介護者共にマスク（サージカルマスク）を着用します。これに関してはケアマネジャーを通して必ず主治医に連絡をとり、マスク着用の必要性の有無を確認し、着用期間等の指示をもらうことが必要です。また、本人及び家族に説明をして了解をもらってください。
- ②ケア全般に関しては通常どおりです。
- ③ケア前後には感染予防の基本である手洗いとうがいを行いましょう。
- ④部屋の十分な換気を行い、空気を清潔に保ちましょう。“換気”は重要です。
- ⑤感染者の洗濯は洗剤を使って普通に洗濯をしますが、十分な日光に当てて乾燥させましょう（乾燥機使用もよい）。
- ⑥シーツ交換はおおむね1週間に2～3回行ないましょう。
- ⑦感染者の使用するものは、1ヶ所にまとめて、掃除をしやすくしておきましょう。
- ⑧病気の悪化を防ぐには、栄養が大切であるため、どのような食事をしたのかがわかるように記録を行い、医師・訪問看護師に報告しましょう。

### **3. 家族への説明**

結核菌は感染者の咳やくしゃみによって空気中に飛散して浮遊していますが、菌を吸い込んだとしても体に免疫があれば感染しません。しかし、体が弱って抵抗力が落ちていたりすると感染の危険があるため、主治医に相談をして、必要であれば介護している家族へ胸部レントゲン検査やツベルクリン反応検査を受けるように勧めましょう。予防のためには、手洗いうがい、日光浴、十分な栄養を取ることです。

乳幼児が同居の場合は感染の危険性があるため、同室を避ける様に説明してください。

### **4. 介護者の安全対策**

発病しても痰の中に結核菌を出していない軽症の場合は、他の人に移す恐れはありません。排菌者も薬を飲み始めると、痰の中の菌は激減します。発病しても治療を始めれば、周囲に感染させる危険性は少ないので、過剰に心配する必要はありません。

★2週間以上咳が続く、微熱が続く場合は要注意で、疑わしい場合は必ず医師の診察を受けましょう。

### **5. その他**

- 1) 初期症状について <結核の5大症状> 咳 ・ 痰 ・ 発熱 ・ 胸痛 ・ 血痰  
その他、身体のだるさ、食欲低下、寝汗などが2週間以上続くことがあります。  
そして、さらに進行すると咯血や呼吸困難、高熱、体重減少などがみられるようになります。

#### **2) 検査・診断について**

##### ・胸部レントゲン検査

ほとんどの結核の病巣はまず肺に現れるので、結核を発見するのにもっとも有効な方法です。

##### ・痰の検査

痰をガラスに塗って染色し顕微鏡で調べる方法（塗末検査）です。

これで、菌が検出されれば、周囲の人にうつす可能性が強いと言えます。

##### ・ツベルクリン反応検査

結核に感染すると、体内に免疫ができ、同時に結核菌の成分に対してアレルギー反応を示すようになります。ツベルクリン反応検査は、結核菌のタンパク成分を皮内に注射し、48時間後にできた硬結（硬くなる）と発赤（赤く腫れる）の大きさで、アレルギーの有無を確かめる検査です。

#### **3) 治療方法**

結核というと昔は何年もの長い闘病生活を強いられていましたが、現在はよく効く薬が開発され、3～4種類の薬を6～12ヶ月間毎日服用することで、短期間で治療できるようになりました。菌を排出している間は入院が必要ですが、菌を排出しなくなれば通院で治療することが可能です。薬は症状が治まっても必要期間継続し、個人の判断で中断しないことが大事です。